

information catch

HASEさんの「悟り」入門

【第1回】

日本全国には、約4万店のコンビニエンスストアがあるそうだ。では、お寺の数は？ 実は、コンビニの倍、約8万寺もあるという。ただ、その実情はかなり厳しい。運営の苦しいお寺も少なくないのだ。瑞岩寺の住職、長谷川俊道さんは、そんな現状を憂い、お寺の未来を模索する。「もっと開かれたお寺、もっと人の心に寄り添えるお寺」をめざし、積極的に情報を発信し続ける。そんな思いを込めた著書も先日発売になったばかりだ。

ありがたい「いのち」を楽しく生きよう！

皆さん、初めまして。私は、群馬県にある曹洞宗のお寺・瑞岩寺の住職、長谷川俊道、通称「HASE」と申します。

プロフィールでご覧のとおり、私は少し変わったお坊さんかもしれません。以前より日本の「葬式仏教」に疑問を感じ、外側から俯瞰してみようと、ハワイのパールハーバーで開教師（日本でいう住職のような役割です）の職に就きました。異国のお寺を体験して感じたのは、「このままでは日本のお寺は存続できない」という危機感でした。祈祷寺や本山、観光寺は別として、地域にある小さなお寺は周辺の檀家さんたちに必要とされなくなれば続けていくことができません。実際、



運営難で廃寺するところも出てきています。私は、「このままではいけない。お寺はもっと皆さんに必要とされる努力をしなければ」と考えるようになりました。帰国後、早速、自宅である瑞岩寺の事業運営改革に取りかかりました。お寺の収支計算書や財務諸表などの情報開示を進める一方で、本堂や境内を使ったコンサートやライブ、講演会といったお寺発信のイベントも積極的に企画しております。おかげさまで、今ではたくさんの方が参加してくださるようになりました。

もともとお寺は、何かにつけ「ちょっとご住職に相談してみるか」と気軽に立ち寄れるような場所だったはずなのです。檀家さんでなくても、曹洞宗の信徒さんでなくても、誰もが来たいと思ったときに足を運べる「開かれた場所」であるべきだと思います。ですから、こうして皆さんにお話できることは、お寺を知って頂く良い機会にもなり、本当にありがたいことです。もちろん、お寺に来られたからといって、出家を勧めたりいたしません。ただ、仏教の教えをお話することでより良く生きるお手伝いになればと思っております。

例えば、私たちが何気なく使っている「ありがとう」という言葉も仏教と関係があることをご存じでしょうか？ お釈迦様の教えを説いた古い教典「法句経」の中に、「人として生まれることは難しく、今生きていることも有難いことだ。世の中に仏があることも、その教えを聞くことも有難いことだ」という言葉があり、これを「ありがとう」の語源とする説があります。お釈迦様ははるか昔に、私たちが人間に生まれ、正しく生きることは難しい。すなわち「有り難い」ことだと説かれていました。お父さんとお母さんがいて、そのまたお父さんとお母さんがいて、さらに遡れば、何千万、何億の「いのち」がつながって、今の私たちがいるのです。どこか一人でも途切れたら、私は私でなかったかもしれません。そう考えると、「いのち」はとてもありがたいものだと感じられるのではないのでしょうか。

私は、これまで1000件以上のお葬式に立ち会ってきました。多くの方をお見送りしながら思うのは、「人の『いのち』に明日の保証はない」ということです。長い闘病生活を終えて旅立つ方もいれば、事故で突然亡くなる方も



群馬・瑞岩寺住職 長谷川 俊道
福井県永平寺で修行後、ハワイ・パールハーバーのお寺に赴任。帰国後は瑞岩寺副住職となり、4月に住職に就任。開かれたお寺を目指し、財務公開や、お寺での講演会、ライブ開催など、お寺の常識を覆す挑戦を続けている。現在、「こまった時の聴きこみ寺」というポッドキャストの番組で人生相談、悩み相談も行っている。

います。いつか終わりが訪れるからこそ、毎日を一生懸命生きることが大事です。生き難い世の中ですが、仏教の教えで皆さんの心がラクになり、前向きに楽しく生きるお手伝いのできればと願っております。

先日上梓した拙書『お坊さんが教える「悟り」入門』も、そんな気持ちを込めて書かせていただきました。このコラムの2回目からは、拙書でも取り上げた仏教の大原則「四法印」をベースに、仏教の教えや悟りの境地についてお話してまいります。

出典：フジサンケイビジネスアイ